

第2回糸島市総合計画審議会  
第一分科会

日時：令和元年8月1日（木）

午後6時30分～

場所：庁議室他

（出席委員）

那須委員、柚木委員、中尾委員、佐藤委員、邊委員

（欠席委員）

古川委員

1．開 会

2．報告事項

3．審議事項

《部会》

・部会長の選任について

部会長 那須信樹委員

・各基本目標における「まちづくりで大切にすること」について

・基本目標1「未来に輝く子どもを育むまちづくり」について

（事務局より資料に基づき説明）

部会長：

早速ですが、28ページの基本目標1「未来に輝く子どもを育むまちづくり」について、委員の皆様から忌憚のないご意見を頂きたいと思います。

委員：

個人的に「夢」という言葉がしっくりきません。将来の夢といたら、子どもたちは職業を思い浮かべます。「“夢”や“希望”を追求し」のところを「自らの可能性を信じ」とかいう文言がいいと思いました。あと、子どもの権利条約をベースにすると、教育の目的というのは、自分のいいところを認めることや他者を大切にできる、自然環境を大切にできるということが入ってくるので、そういったことも入れていくと、糸島らしくなるのではないのでしょうか。

委員：

「子どもたち」とありますが、市立の小学校、中学校だけではなく、高校生や大学生も非常に大事なので、糸島で活動している高校生・大学生も視点に入れていただきたいと思います。それがスポーツや生涯学習につながっていくので、それぞれのライフステージで人材を育てていくという視点を概念的に盛り込んでいただければと思います。

部会長：

確認ですが、ここで言う「子ども」というのは、年齢的には0～18歳でしょうか。

事務局：

一応、0～18歳を想定しております。市の取り組みというのは、どうしても中学生までになりますので、高校生への施策がどこまで入れられるかは、今後の検討課題になります。考えとしては、次の10年を担っていく子どもたちをつくっていくという視点を持っております。

部会長：

子どもの権利条約でも、子どもは18歳までとしております。この対象となる読者は市民になります。これは学習教材として、非常に価値のあるものになりますので、しっかりと作り込んで学校教育の場で使えるようにするのがいいと思います。そうしないと、自分のまちのことを知らないまま育ってしまいますし、我々大人が勝手に未来の話をして、少し違うのではないかという思いがします。また、読みやすさという点でも、工夫が必要だと思います。今、頂いたご意見を、ぜひ反映させていただきたいと思います。

委員：

子どもによって、人間関係などいろいろあると思います。ここに「家庭環境や社会的状況など」と書いてあるのですけれども、それも含めて、人づくりがあるのかなと思いました。28ページの下の記事は、一人で取り組んでいる教育や文化という印象を受けるので、それに加えて、その人が持っているネットワークが可能にしていくものがある、ということが分かるような文章だといいいのかなと思いました。

事務局：

他者を大切にするという感じで、人とつながりあえるという視点を入れたいと思います。キーワードとして出ているのが「人とのつながり」「他者を大切にする」「糸島ならではの自然を大切にしてい」「ライフステージに応じて自分の可能性を実現できる」という文言で、文章を作るといいでしょうか。

部会長：

先ほど言われたとおり、子どもの権利条約は国際法ですから、その辺りも糸島はきちんと分かっていること。そして、生きる主体としての子どもの存在、子どもという存在を我々大人がどう捉えるかというのは、今、非常に注目されております。まちづくりに子どもも参画していくことも

いろいろな国で取り組まれています。昔から言われている、「よく遊び、よく学べ」というキーワードが大切だと私は思っていますが、それが実現できるのがこの地域ではないかと思えます。

委員：

「遊び」という言葉も、キーワードとして入れたいです。

委員：

「夢」や「希望」と一般的にくっってしまうのではなく、地域の祭りや文化の中で、地域と一緒に子どもを育てていく、関わりを深めていくことが大切だと思います。「個性を生かしながら」というのが、人を大事にする意味合いが一番あるのではないかという気がしますので、太字にしたらどうでしょうか。

委員：

学習指導要領の中には「地域」というキーワードがたくさん入っています。先ほど、私が高校生を入れたらどうかと申したのは、高校もこれから地域とつながって、地域の人材育成をしていくという視点が始まっているからです。そのため、地域との関わりの中で子どもたちを育てていくという視点が重要だと思います。

あと、地域の子どもたちを育むうえで、私が問題意識として1つ持っているのが、世界を目指すようなトップレベルの子どもたちを育てていくという視点や、生きづらさを感じている方への支援もあったのですが、その中間層で、目立たないけれどもいいものを持っている子どもや、将来の夢や考えはまだないけれども、何かの刺激を与えればすごいものを発揮する子どもをどう育てていくかという視点が、今までなかったような気がします。そういった意味では、個性を大切にすること、充分盛り込んでいく必要があると思います。

部会長：

おっしゃるとおり、中高生の居場所づくり、とりわけ高校生の居場所が地域にないということが大きな課題だと思います。

委員：

見守り活動という対象が全部小学生になりますが、最近では中学生も見守らないといけないのではないかという意見が出ています。先ほども出ましたが、子どもというのはどこからどこまで考えているのかといったときに、中学生も高校生も子どもだという話になってくると思います。また、学力などではなく、精神的なものを子どものときから育てていかなければいけないと思います。この作った計画をどう生かすかが大切で、糸島をどうしていくのかを子どもたちに教えていくことが大事だと思います。

部会長：

対象となる読者を、総合計画審議会の全員が共有しながら話をしていくと、内容も具体的なもの

になっていくのだと思います。専門的な用語がどうしても出てきますが、それでは本当に伝えたいことが伝わっていかないと思います。公のものと実際に活用する部分を分けるといいのではないのでしょうか。

委員：

前回のように、ダイジェスト版を作るといいと思います。

事務局：

今回もダイジェスト版を作る予定にしております。総合計画を策定する最初のコンセプトとして、分かりやすく市民に、それと、大事なのは手に取ってもらえるということ、もう一つ大きなイメージとしては、糸島市民の将来像を言えるようになってもらいたいと思っております。なので、できるだけ分かりやすく作っていかうと考えております。

部会長：

子どもなりに感じていることはたくさんあると思いますので、そこをどう拾い上げていくかだと思います。先ほど、中学生くらいまでは見守る対象にというお話がありましたが、地域で子どもたちを見守るといったときに、今の若い学生さんたちは感覚的に、どのあたりまで見守ってほしいと思うのか、その点どうでしょうか。

委員：

私の立場としては2つあります。1つが、学生団体として地域で小学生向けのイベントをやっていますが、自分たちがカバーできる範囲は小学生になると思います。中学生の見守りについては、対策をしっかり考えないと、少し難しいところです。

もう1つが、青少年の健全育成とか非行防止という活動をしてありますが、これは18歳以下が念頭にあります。非行や犯罪となると、中学生や高校生のほうが多くなるので、そのあたりを重点的にカバーして、サポートしていく活動をやっております。

部会長：

ありがとうございます。その辺りが、31ページの基本目標2「人と人がつながり助け合うまちづくり」の大事な視点になると思います。

時間が少なくなってきましたので、基本目標2に移りたいと思います。

#### ・基本目標2「人と人がつながり助け合うまちづくり」について

委員：

どんどん変わる中で、10年後を考えるのはすごく難しいです。子どもが考える10年後と大人が考える10年後は違うと思いますので、大人だけで作った計画は少し違うのではないかと思います。

事務局：

この審議会のほかに、まちづくり審議会がありまして、今年はそこに高校生が入ってもらい、一緒に検討していただいています。ほかにも、高校生未来会議や中学生“いとしま”未来への提言でご意見を頂いております。なので、前回の審議会よりも若い方に入っております。

委員：

この総合計画は0歳から高齢者までが対象となっているので、一部の人を作るのではなく、全世代が関わるような形に持っていく必要があると思います。

部会長：

基本目標2の施策について、あれもこれもせずに、もう少し絞り込んでやっていくのもいいかもしれませんが。《まちづくりで大切にすること》の中の「地域の中で自分の存在価値を実感できる」というのは、ワンランク上のまちというのは、市民一人一人の意識によるものです。なので、誰かによって与えられたワンランク上のものではなく、つくり上げていくワンランク上を目指すのが、今回皆さんが大事にされていきたい視点なのかなと感じました。

委員：

今の意見に賛成です。やはり「自分の存在価値を実感できる」という表現はすごくいいと思います。一人一人の個性を輝かす、それがつながるまちづくりが理想だと思います。

今、試験的に糸島市内で、理解ある大人と高校生で、どんな居場所ができたらいいか話をしていますが、その前に、自分ができることや得意なことを出し合うことでお互いを知り、大切さを認識して、チームを作ろうとしております。お互いの個性が光って、存在意義があって、人がつながっていくというまちづくりが重要な考え方だと思います。

委員：

金子みすゞさんの「みんなちがって、みんないい」というフレーズを気に入っていますが、それでいいのだと思います。

委員：

みんなが同じ考え方だと、均一的な解決策しかできないのですが、それぞれ違うからこそ、多様な課題に対して解決策が出てきて行動ができると思います。若い人も大先輩もいるからこそ、いろいろな解決策やアイデアが生まれる地域というイメージがあります。時代が変わっても大事にしたいこと、時代が変わるからこそ大事なことがあると思います。

部会長：

「食べる」ということは、生きるうえでの根源的な問題ですし、一生関わる問題なので、キーワードになってくると思います。その先には食料自給率があります。糸島はそのポテンシャルがもの

すごくあります。しかし、目の前にあることが当たり前すぎて、その価値に糸島の方々はあまり気付いておられないような気がしてなりません。食料自給率についても、この戦略の中に盛り込んでいいと思います。「お裾分け」という文化も、まだまだこの地域にはあるはずです。そういうところこそ、災害にも強いまちなのです。  
時間がまいりましたが、何かございますか。

事務局：

たくさんキーワードを頂きましたので、次回このキーワードを基に、《まちづくりで大切にすること》の文章をもう一度ご提示できればと考えております。次回以降は政策のたたき台の案をご検討いただきたいと思います。

部会長：

ほかはよろしいでしょうか。今日は短い時間でしたが、次の会に向けた、皆さんの視点が共有できたのではないかと思います。今日は本当にありがとうございました。これで閉会いたします。

4．閉会